

婦人科に通院中（または過去に通院・入院されたことのある）の
患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「疫学研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 予後不良組織型子宮体がん（漿液性腺癌）についての調査研究

[研究機関] 北海道大学病院婦人科

[研究責任者] 渡利 英道（婦人科・講師）

[研究の目的]

本邦における予後不良組織型子宮体癌の疫学、治療内容（手術、化学療法）、治療成績、生命予後（治療後の経過）について調査を行い、標準治療法策定のための材料とする。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2006年1月より2008年12月までに当院にて手術療法を行い、組織学的に子宮体部漿液性腺癌と診断された症例

●利用するカルテ情報など

手術組織検体からの病理組織標本及び
カルテ情報：

- 1) 年齢、身長、体重、一般状態(P.S.)、
- 2) 妊娠歴、月経歴
- 3) 既往歴（特に糖尿病、高血圧、ホルモン療法、乳癌）、
- 4) 家族歴（特に乳癌）
- 5) 術前腫瘍マーカー値（特に CA125）
- 6) 画像診断（CT/MRI による臨床診断、子宮外病変の有無）
- 7) FIGO 進行期（1988）pTNM
- 8) 術中所見（子宮および付属器、子宮外進展の有無）
- 9) 細胞診（摘出前頸部、内膜、手術時腹腔内）
- 10) 病理組織
術前診断の根拠となった搔爬標本
摘出標本

摘出子宮所見（筋層浸潤の深さ、LVSIの有無、UPSCの占める割合）
リンパ節転移の有無（転移部位、転移個数/検索個数）、
子宮外病変の有無と部位（付属器、骨盤および腹腔内）

- 11) 治療開始年月日
- 12) 治療内容（術式、術後療法の内容と一次効果）
- 13) 初回治療後の増悪日、再発部位
最終確認日、転帰

[個人情報の取り扱い]

利用する情報や病理標本からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

*本研究にこれらを利用することについてご了解いただけない場合は、以下[問い合わせ先]にご連絡ください。

[問い合わせ先]

北海道札幌市北 14 条西 5 丁目
北海道大学病院婦人科 担当医師 渡利 英道
電話 011-706-5941 FAX 011-706-7711